

グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）			カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）		
急激な社会の変化により生じる多様な課題に対し、文系・理系の枠にとらわれず、各教科等における「自律的な学び」やデータを利活用した課題研究・STEAM教育などを基盤として、課題を発見・解決し、新しい社会的な価値を創造する資質・能力を持った「未来創造型科学技術人材」・「郷土を愛しつつ、国際社会に貢献できる高い志を持ったリーダー」を育成する。			1 地元大学、地区大学さらに難関大学などの国公立大学への現役合格をめざし、基礎基本を重視し、「自律的な学び」につながる教育活動を実施する。 2 生徒の適性や進路、習熟度に合わせて、2年次から文系・理系の類型を設定する。また選択科目の幅を広げ、習熟度別講座編成や少人数指導、ICT活用などを通して、「個別最適な学び」「協働的な学び」を実践する。 3 SSHやSTEAM教育・データサイエンスを積極的に推進する。 4 人間力の涵養と高いレベルでの「文武両道」をめざし、特別活動などの諸活動を重視する。		
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
グラデュエーション・ポリシーの達成		グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員の割合7割以上 (A: +75 B: +60 C: +50 D: +40)	A	「グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると思いますか。」という教員対象アンケートに対して、75%が「十分に成長している」「成長している」という肯定的な評価をしているが、20%が「どちらとも言えない」、3%が「あまり成長していない」「成長していない」という否定的な評価をしている。	教科等における指導法の改善、探究活動・国際性育成に関する取組を更なる充実などにより、グラデュエーション・ポリシーに沿った成長を促す。
自己実現の支援・個性伸長の支援	生徒のキャリアデザイン能力の育成と自己実現の積極的な支援	1 日平均家庭学習時間： 1・2年生は、3時間以上が50%以上、3年生は、5時間以上が50%以上。(A: +50% B: +40% C: +30% D: +20%)	E	6月調査 1年生24% 2年生13% 3年生18% 10月調査 1年生15% 2年生12% 3年生26%	ICTを活用しながら、課す課題の種類・量や提出方法を適宜見直す。全員に一齐に課す課題だけでなく、個別最適化された提出を求める課題や自主学習課題の割合を高めたい。教科等横断型樹授業やSTEAM探究、各種進路資料などを通して社会の課題や自らの進路について探究を深めることで、自らの向上を目指す意欲を高めることにつなげる。
		現役生の国公立大学合格者数：250人以上 (A: +250 B: +230 C: +210 D: +200)	E	3月11日時点での合格者は192名。 (昨年同期期240名、一昨年同期期222名)	入試制度の変化や多様な選抜方法に対応できるよう、総合的な力の育成に努める。
		現役生の難関国立大学合格者数：20人以上 (A: +20 B: +15 C: +10 D: +5)	C	3月11日時点での合格者は10名。(昨年同期期16名、一昨年同期期17名)	高い達成目標を設定し、その目標や適性に応じた個別指導を充実させる。
		全国模試平均偏差値：60以上 (A: +60 B: +56 C: +54 D: +52)	C	進研模試で1年生58.6(2回) 2年生57.2(2回) 3年生文系55.0 理系51.8(6回)。	個別最適な学びを念頭に、ICTの活用等、指導方法の工夫をさらに進め、学力の向上を図る。
	生徒の個性・能力の伸長の支援	部活動加入率：90%以上 (A: +90 B: +86 C: +84 D: +82)	A	93.10%	加入率の向上とともに、入部後、継続して活動していけるように、活動内容の充実を図ってきたい
		体育部において四国大会出場6部以上、全国大会出場4部以上 (A: +6 B: +4 C: +3 D: +1)	A	体育部 四国大会6部 全国大会4部	団体(球技)種目部活動が各大会に進出できるように、部員の確保と活動の充実を図りたい。
	県高校総文祭優秀賞：6部門以上 (A: +6 B: +4 C: +3 D: +1)	C	3部門(自然科学部、弦楽部、文芸部)	活動場所や活動内容について検証し、工事期間中の活動場所の確保、及び活動内容の充実を図りたい。	
豊かな教養の涵養・豊かな人間性の育成	先進的なSSHの取組により新しい価値を創生する未来創造型科学技術人材の育成	全国レベルの国際科学系コンテスト入賞数：5件以上 (A: +5 B: +4 C: +2 D: +1)	D	JSEC2025高校生・高専生科学技術チャレンジ 佳作	次年度は多様な国際科学系コンテストの積極的な参加を促していき、多角的な視点から思考できる人材育成を目指したい。
		全国レベルのアイデア系コンテストへのチャレンジ：各生徒1件以上	A	目標を達成するとともに、入賞率が昨年度に比べて増加した。(出品数の割合：31.1%→34.2%)	次年度もアイデア系コンテストに積極的に参加し、上位入賞を目指して精進したい。
		理数科生徒におけるSSH事業の成果を活用した進路実現100% (A: 100 B: +80 C: +50 D: 50未満)	C	在籍37名中、1月末現在で学校推薦型選抜合格5名、総合型選抜合格2名。また、学校推薦型選抜に6名、総合型選抜に9名、一般選抜に30名出願中。	一般選抜の結果を踏まえて浪人生がいなければA:100になり、浪人生がいる場合はB: +80となる。その場合は次年度の既卒生として加えて評価する。
	心身ともに健康で人間性豊かな生徒の育成	出席率：99%以上 (A: +99 B: +98 C: +96 D: +94)	D	1月末現在、95.4%(昨年度同時期 97.1%)	一層の出席率の向上・維持に努めたいが、不登校傾向生徒や長期入院生徒など、登校が難しい生徒の心のケアや学習機会の確保のために、関係教員・機関の連携を進めたり、オンライン授業の運用を検討したりする。
		重大交通事故発生件数：0件 (A: 0 E: +1)	B	重大事故の発生は0件であったが、徒歩高齢者と接触する加害事案が発生した。事故の報告件数としては前年度から微減であった。	時間と心にも余裕を持ち、ルールやマナーを順守した登下校を実践すべく、継続して指導していきたい。ヘルメットの着用自体は良好であるが、適正着用についても啓発していく必要がある。
		いじめはどこでも起こり得るとの認識に立ち、早期に発見し解決する。	B	2学期の「いじめ・体罰アンケート」から、2年生において、暴言によって登校しづらくなるという事案が発覚した。その後、教育相談的な立場から当該生徒へのきめ細かい指導を行い、改善に向かった。	アンケートの結果やクラスの生徒からの訴えから事実確認→当該生徒への指導→継続的な観察という流れで、いじめに対して「早期に発見し解決する」という体制を維持し、適切な対応を心掛けていきたい。
	「オール南高」の意義を全校生徒が理解し、定時制・砥部分校と共有する。	C	文化祭における造形コンテストや芸術文化発表会を通して、定時制・砥部分校との交流機会を設けることができた。	文化祭や芸術・文化発表会などの行事を通して「オール松山南」の意義を共有していく。	
働き方改革	働きがいと仕事量のバランスのとれた職場環境の形成	ストレスチェックを指標として、仕事量とコントロール、上司と同僚の支援、総合健康リスクを健全に保つ。	C	ストレスチェックは、改善すべき大きな問題点はなく、昨年度同様比較的评价できる結果であったが、超過勤務の教職員も少なからずいる。	業務削減と適材適所の校務分掌の実施により勤務時間外在校等時間を減らし、仕事環境の改善整備の実行により心の健康を保つ。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。